

放課後キッチン・ごろごろ視察 ヒアリングシートまとめ

取組概要、運営の様子について

* 活動を始めた経緯

2015 年に開催された田無公民館の社会問題講座「子供の貧困に向き合う地域を作る」を受けたメンバーがグループを作り 2015 年 4 月から田無公民館で子ども食堂を始めた。

そのグループで、事務局長になり、いずれは緑町の地元で子ども食堂をやりたいと思っていた。

2016 年 2 月に、奇跡のように自宅近くに社会福祉協議会の地域活動拠点ができ、近所の友人を誘い、放課後キッチンごろごろを 3 月 14 日から始めた。メンバーには、西東京市役所の OB の男性もいる。

- ・元〇〇という肩書きがない人ができる活動をしようと始めた。

* 活動の目的

18 歳までの子どもに無料で食事と居場所の提供をして、健やかな子ども時代を過ごすお手伝いをする事。

- ・子どもを何とかしたい。評価をしないあたたかい居場所を作りたいかった。
- ・寂しい子がいっぱいいる。ひとり親家庭の子、発達障害の子等、気になる子を地域が支えられたらいいと思う。

* 活動内容

月に二回、第 2 月曜日と第四木曜日の午後 4 時から 8 時まで、ほっとハウスみどりにて、食事と居場所の提供。保健所に届ける必要性がない条件でやっているの、食事は 15 名まで。

- ・親を非難しても何も変わらない。やることで大人が元気になる。「子どもが真ん中」の地域づくりをやっている。
- ・利用する子たちの名札を作ることで匿名性がなく付き合える。
- ・学校関係者に終了時間が遅いことを指摘され、子どもは午後 6 時までとした。
- ・食事の提供については施設面での決まりごとが多くて月 2 回が限度。社協の施設は 1 年間を通して押さえられるので定期的な活動ができて助かっている。

* 活動の対象（どういう子どもたちが来ているのか）

最初は、中原小、谷戸二小の子どもも来たが、今はほとんどが学区域である谷戸小の子どもたち。

- ・最初は人が集まらなくて、近くの公園に声をかけにいたり、駄菓子屋に子どもを呼びに行ったりもした。
- ・今は欲張らずに、谷戸小学校区でやろうと考えている。
- ・貧困を前面に打ち出すと子どもが来なくなる。気になる子を救うためには広く網をかける必要がある。告知の仕方が難しい。
- ・小学校の保健室にチラシを置いてくれている。

* 現在の課題

最近、課題がありそうな子ども達も来るようになったので、子どもへの関わり方などを検討している。

子どもに寄り添い、安心安全な場所として認識してもらい穏やかな時間を過ごすためのサポートする体制の強化。

- ・子どもの対応について、児童館のセンター長に話を聞いたり、調理について学校の栄養士に話を聞いたりして対応している。
- ・課題のある子については、学校と連携しながら情報交換できるといい。
- ・食堂のスタッフ（お手伝い）はだれでもいいわけではない。特に課題のある子のなかには他人との距離感が近い子もいるので、キケンな人でないか見極めてから受け入れる必要を感じている。

* 今後の展望 等

田無二中の中学生が定期試験の前などに来てもらえるような仕組みを作って行きたい。

- ・教えたいと思う人はたくさんいるようだ。
- ・都立高校に入れるくらいの学力をつけて送り出したい。
- ・小学校区に1つずつできるといいなと思う。各場所に3人くらい覚悟を決める人がいれば何とかなる。結局は人のやる気が大事。

課題はありますが、子ども食堂へはたくさんの方々に関心を持っていただき、困った時にサポートしてくれる専門家(弁護士、学校の先生、児童館の方、行政、等々)もいます。なので、実は嬉しい悲鳴はあってもあんまり困ってはいないのです。本当にありがたいと思っています。

委員考察（感想、意見）

- ・スタッフも気心が知れたメンバーでやっているようで、あたたかい雰囲気が感じられた。
- ・石田さんをはじめ、メンバーの人柄がとても自然体で、建物も含めて安らいだ。
- ・石田さんが最初の頃、子どもを呼び込むために、いこいの森公園まで行ったエピソードが心に残っている。
- ・今現在の利用者リストを見て、事業が軌道に乗ってきたことがわかり、素晴らしいと思った。
- ・軌道に乗るまでは大変だったようだが、今回の視察で山を越えたように感じた。
- ・プロではないので、子どもへの接し方に悩むことも多いそうだが、児童館の先生に相談したりするパイプもあり、環境が整っている。
- ・メンバーの方々が目的意識を持って地域で子どもを育てている様子が伝わってきた。終戦間もない頃、村の大人たちが寺や公民館などを使って子どもと接し、居場所を作ってくれたことを思い出した。
- ・どの施設も共通で、そこにいる大人がいきいきと活動していて、その大人を信頼し、子どもが集まってくるのだと思った。場の雰囲気作りは大切だと思った。

- ・先日弁護士会館での講演会で、中核市として初めて児相を設置する明石市の市長の話を聞いた。

明石市の市報は「子育てするなら、やっぱり明石」とタイトルをつけ、子ども子育て問題を中心に据えた市政を広報している。「みんなで守ろう！ 子どもの命と心」のコーナーでは「いよいよプロジェクト始動！あなたもこども食堂に関わってみませんか？ 市はこども食堂の運営のコーディネートを始めます。こども食堂をやってみたい、手伝ってみたいけれど、どうしていいかわからない、そんな人を関係機関と連携し、応援します。お問い合わせは児童福祉課」とある。西東京市もできれば市の機関が率先してコーディネートできれば良いと思う。

明石市がどのような形で 児童福祉課と市民をつなぎ、こども食堂を事業展開していくのか、知りたいと思っている。